

# 生田緑地ばら苑の再編整備

施設整備・管理運営事業

本日の目的：

～民間事業者の皆様と生田緑地ばら苑の価値を共有し、

新たなばら苑づくりをはじめたい～

※優先的検討プロセス：Step1 民間活用の可能性検討として実施します。

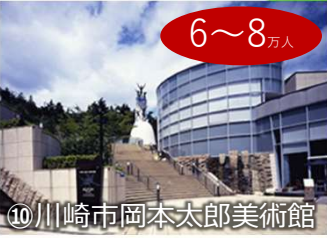
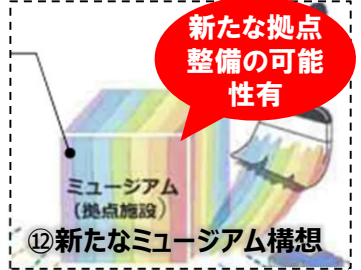




# 1 生田緑地ばら苑のポテンシャル

## (2) 生田緑地 (ばら苑) の立地

口小田急小田原線線向ヶ丘遊園駅、JR南武線宿河原駅から20分



## (1) 生田緑地ばら苑の歴史

年	内 容
昭和2(1927)年 4月1日	小田急線の開業と同時に向ヶ丘遊園が開園
昭和32(1957)年	小田急線開業30周年事業としてばら苑建設を計画 ばら苑整備にむけて準備委員会設立 (メンバー：設計 東京大学農学部園芸学教授 横山光雄 ばらの栽培・育成 福羽発生、岡本勘治郎、小沢和雄など)
昭和33(1958)年 5月23日 5月27日	小田急電鉄株式会社が、「関東一のばら苑「小田急向ヶ丘ばら苑」」 を整備・開園。 秩父宮妃殿下が来園
昭和34(1959)年	開園1周年を記念して高松宮妃殿下が来園
昭和52(1977)年	ロイヤルコーナーに「花の女神フローラ像」を設置。 フラワーショー15周年記念
平成14(2002)年3月 平成14(2002)年～	向ヶ丘遊園閉園 市民の声に応える形で市がばら苑を小田急電鉄株式会社から引き継ぎ、 生田緑地ばら苑として、春と秋の年2回開苑(春533(秋440)品種 春4,700(秋4,400)株)。市民ボランティアが除草作業を手伝う。
平成19(2007)年～ 平成30(2018)年	日本ばら会の指導を受け、ボランティアもバラの栽培管理に参加 日本ばら会の支援を受け、現在の春800(秋620)品種 春3,300(秋2,900)株数を確認
令和2(2020)年	新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、春の一般開放中止、 秋から再開

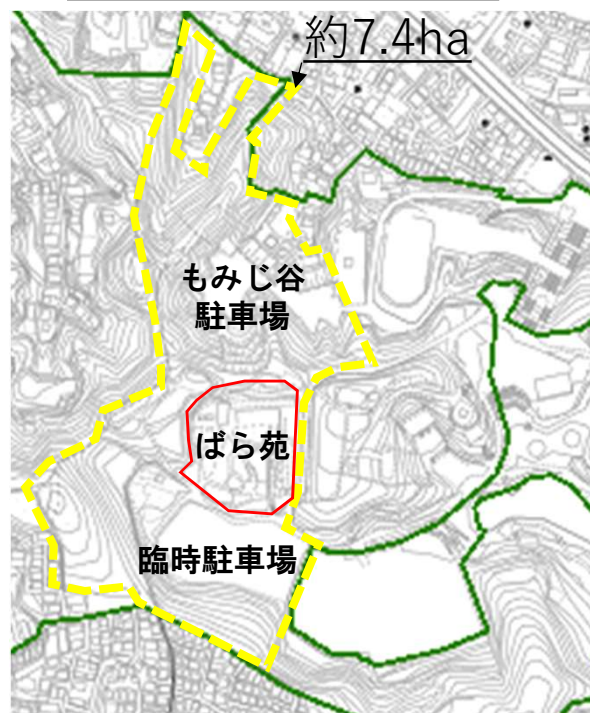
## (2) 特徴

**住所** 川崎市多摩区长尾2丁目8番1号ほか

**面積** ばら苑12,000㎡、ばら苑及び周辺区域73,856㎡

**主な施設** ばら苑（バラの丘、ロイヤルコーナー、見本苑、見本西苑、白亜の彫刻（「白鳥と子供」「母と子」、「花の女神フローラ像」）、中央苑路、中央西苑路、東苑路、西苑路、南苑路、パーゴラ、ローズガーデンハウス160㎡、温室、コンテナトイレ（男子・女子）各1基）、オールドローズコーナー、臨時（身障者用）駐車場、もみじ谷駐車場、苗圃、管理棟、プレハブ倉庫、樹林地

ばら苑及び周辺区域



ばら苑俯瞰



動画：<https://youtu.be/eWVsNLPlg9s> 参照

## 2

## 生田緑地ばら苑の概要

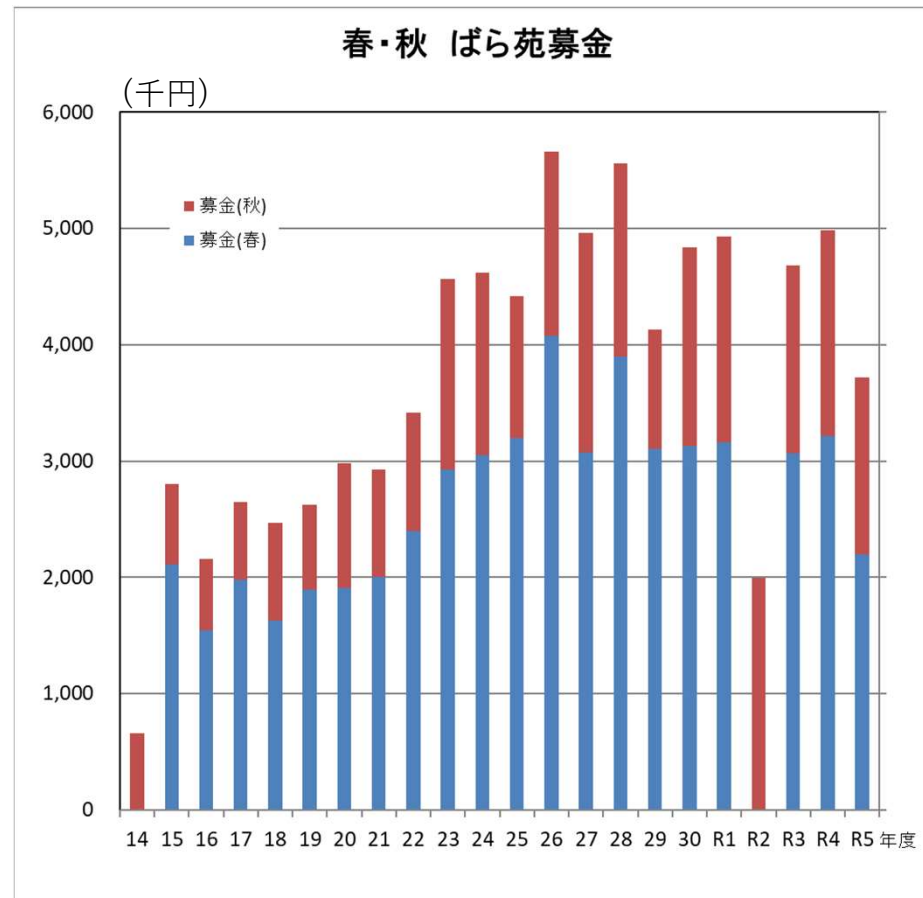
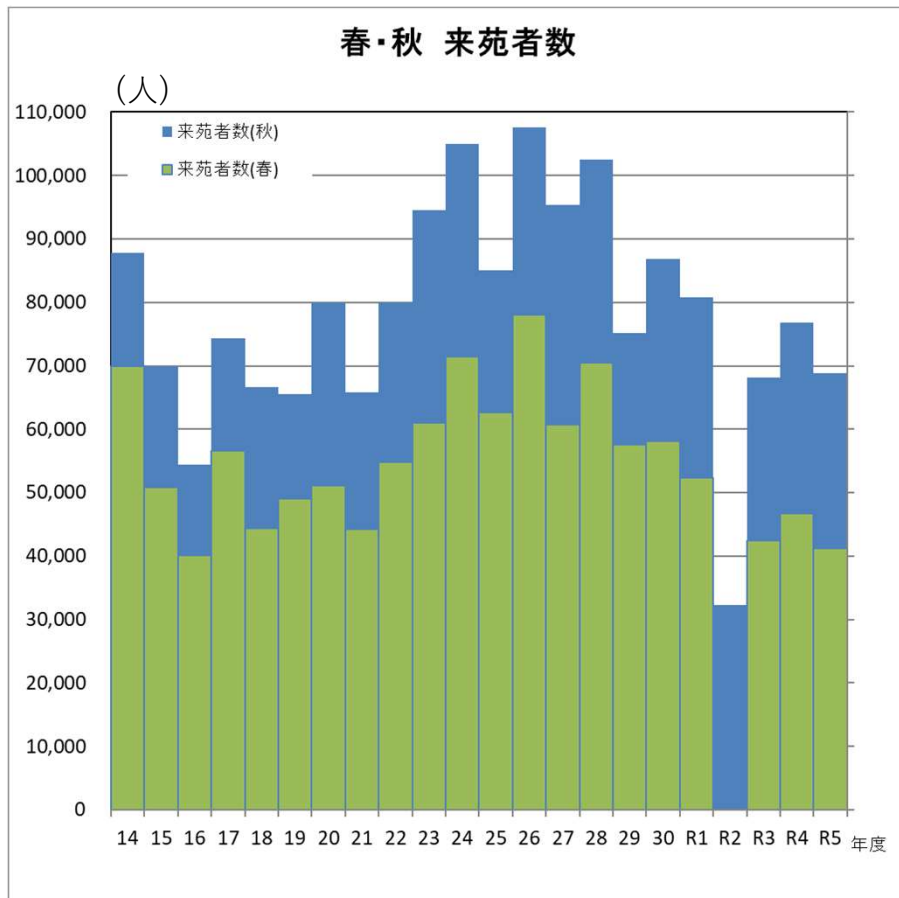
## (2) 特徴

開園期間	春 5月中旬から(R5は、5/11～5/28) 秋 10月中旬から(R5は、10/19～11/12) 年間45日	
開苑時間	平日 午前10時～午後4時30分(秋は午後4時)まで 土日祝 午前9時～午後4時30分(秋は午後4時)まで ※いずれも最終入苑は閉演時間の30分前まで	
入園料	無料(ばら苑募金への協力を依頼)	
入苑者数等	R5 68,824人(41,155人(春)、27,669人(秋)) 有料駐車台数 5,852台	
ばらの種類	800品種3,300株(秋は620種2,900株)	
駐車場	臨時駐車場:60台(1回500円) もみじ谷駐車場:100台駐車可能だが、開苑時はばら苑への歩行者動線確保のため不使用	
管理者	川崎市(受託者 公益社団法人 川崎市公園緑地協会) 管理委託費 約8千万円/年	
市民 ボランティア	登録人数:約169人、作業人数:15～30人/日	
	活動日	月曜日を除く、平日及び土・日曜日のうち、月12回前後、年中
	主な作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バラの育成管理(除草,芽かき,凋花切り,牛糞撒き,中耕,施肥,側蕾取り,剪定等)</li> <li>・ばら苑及び周辺の維持管理(除草,芝生管理,樹木管理,清掃等)</li> <li>・開苑期間中の業務(来苑者の受付及び来苑者数の把握,募金の受付,苑内のガイド等)</li> </ul>

## 2

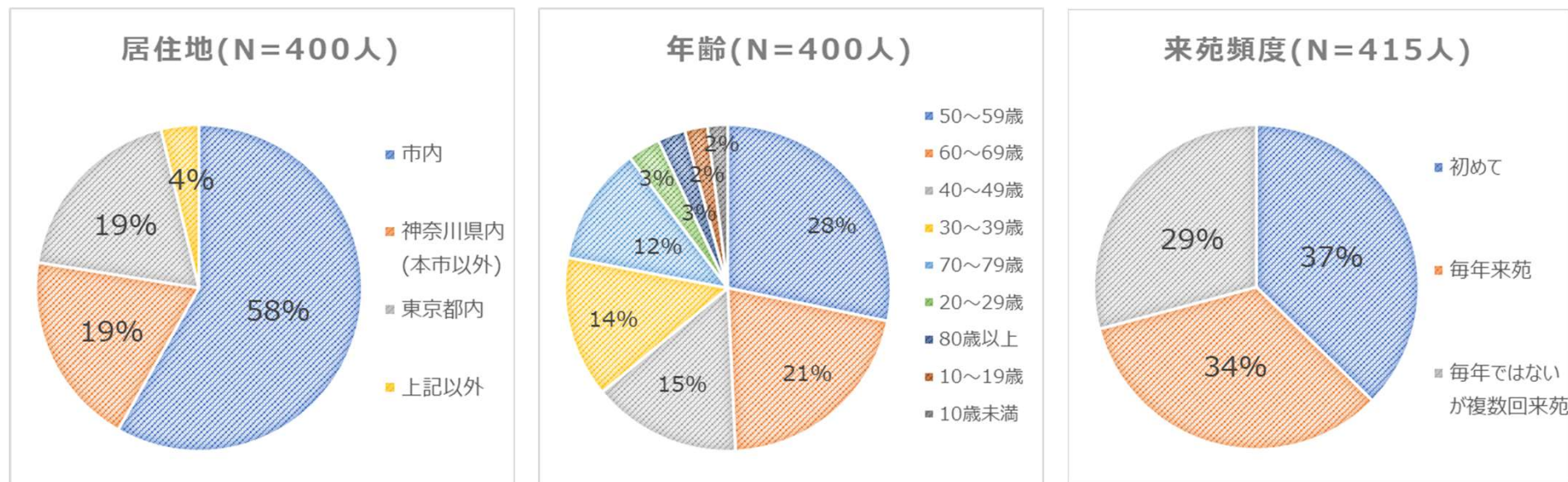
# 生田緑地ばら苑の概要

## (3) 入園者の推移等



## (4) 入園者の属性等 (R5秋来園者アンケート)

ばら苑は、市街地から40m上がった丘陵地に位置し、周囲を樹林地に囲われていることから、「天空の秘密の花園」として、市内外問わず親しまれており、開園期間中は、テレビ等によりばらの開花状況が全国に発信され、観光地として賑わっている。





## (1) 課題整理

生田緑地ばら苑は、開苑から65年経過し、ばらの感染症対策、施設の老朽化、魅力づくり等の課題に直面している。また、市民ボランティアとの協働により管理してきた取組の持続性の確保や本苑の位置する生田緑地東地区内の他の事業との調整等が必要となっている。

### ア ばらの感染症

古い希少種のモダンローズや各国の要人にゆかりのあるバラなど多種多様なバラ(春800種3,300株,秋620種2900株)を有するが、多くのばらが根頭(こんとう)がんしゅ病※に感染しており、根本的な解決に向けて大規模なばらの植替えや土壌の入れ替えが必要となっている。

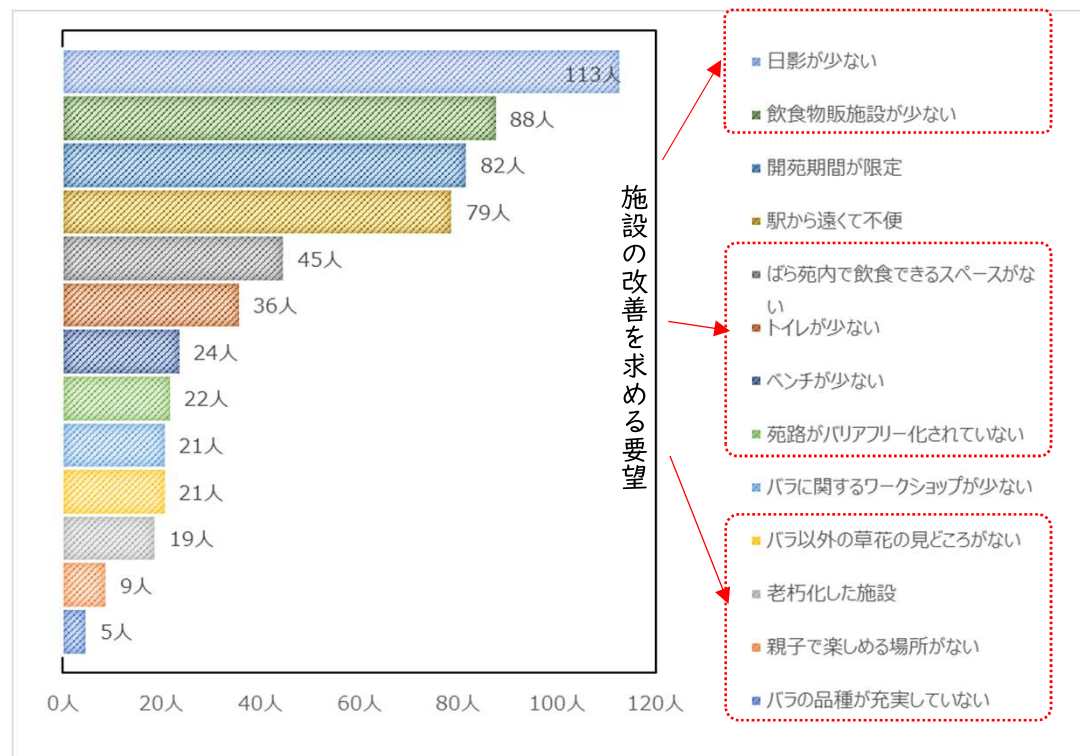


※根にコブが発生する病気で、防除方法は確立されていない。急速に枯れることはないが、患部が肥大すると樹勢が衰える。

## イ 施設の老朽化

本苑は開設から65年経過し、修景施設(水系施設は既に廃止)、園路、トイレ、レストハウスなど全ての施設が老朽化し、インクルーシブ施設としての取組への対応や多様なニーズに応えるためには、大規模な改修が必要となっている。

## 令和5年10月来苑者アンケート結果「生田緑地ばら苑の改善要望」



修景施設の老朽化



ローズガーデンハウスの老朽化

## ウ 魅力づくり

「旧向ヶ丘ばら苑」は、東洋一のばら苑として開園・供用され、小田急向ヶ丘遊園閉園後は、市が引き継ぎ「生田緑地ばら苑」として維持管理しているが、バラの品種、株数の減少や維持管理水準の向上、老朽化等に伴う水系施設の廃止、限定されている開園期間、適切な管理体制の検討も含め、魅力づくりに向けた検討が必要となっている。

## 令和5年秋の開苑時の開花状況

## ○気候変動による変化

秋は春に比べ花数が少ない状況だが、特に今年は残暑が続いたため、開花状況に影響が見られ、開苑前日（10月18日時点）での開花状況は、苑内にちらほらと咲いている1分咲きに満たなく、閉苑日においても5分咲にとどまりました。

原因については、地球温暖化（沸騰化）により、秋の開花時期をコントロールすることが難しくなっていると考えられる。また、夏季に雨が少ない場合には十分な灌水等が必要なことも重要となっている。

## ○病害虫による被害

咲いた花についても、オオタバコガの大発生により花が傷んでしまったことも踏まえ、毎年様々な要因で発生する病害虫の被害に対応するため、発生状況を常にモニタリングし、適宜薬剤散布等を実施することが必要です。



花が鑑賞できない状態(開苑前日)



オオタバコガに喰われた花



### エ 協働の取組の持続性の確保

小田急電鉄株式会社から市が引継ぎ、市民ボランティアの協力を得ながら維持管理運営している。ばらの育成に関わることができることから、生田緑地ばら苑ボランティアは新規の会員も増えているが、高齢化等により退会者もいることから、横ばい傾向であり、社会全体の高齢化の進行に伴い担い手不足といった課題に直面することが危惧される。

### オ アクセス路の確保

生田緑地ばら苑への主動線は、旧向ヶ丘遊園跡地(小田急電鉄株式会社の協力)に依存しており、跡地利用計画との調整・整合が必要。また、現状は、アクセス路の安全確保や送迎等の費用が当苑の管理委託費の約1/3を占めている。



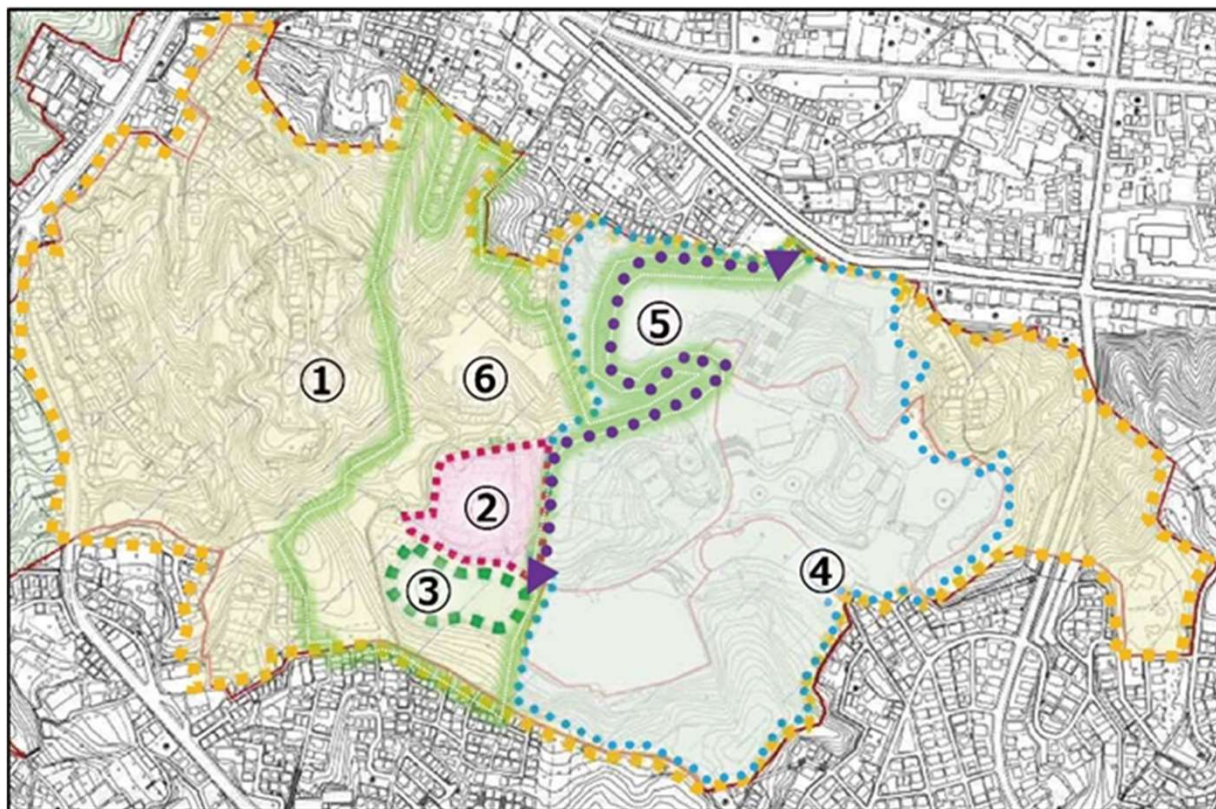
川崎府中線入口部の車両待機場所



ばら苑までの通路(片側交互通行)

## カ 生田緑地東地区内の他の事業との調整

生田緑地東地区内において、検討が進んでいる新たなミュージアム構想、向ヶ丘遊園跡地利用計画といった他の事業との調整が必要であり、特に新たなミュージアムの開設候補地を正式な開設地に決定するために小田急電鉄株式会社と覚書を締結したことから、これらの動きも踏まえ、ばら苑周辺区域も含め再整備のあり方を検討する必要がある。



番号	名称	面積 (ha)
①	東地区	53.6
②	ばら苑	1.65
③	新たなミュージアム構想開設候補地	検討中
④	向ヶ丘遊園跡地利用計画区域	—
⑤	現状のアクセス(車)	—
⑥	課題解決を図る際の対象範囲(案)	検討中

## (2) 「継承すべき・したい資源」

継承すべきばら苑の資源を「ばら」「庭園」「協働」とする。

ア ばら「歴史を重ねたバラのコレクション」

苑内には、古の銘花から最新品種まで、作出年代に偏りなく、800品種、約3,200株のばらを育成・管理している。



### 有識者へのヒアリング

#### 【植物分類学】

- ・ 生田緑地ばら苑のバラは関東圏のばら苑では珍しく、関西地方で育成されたバラが保存されており、研究の際に重宝した。
- ・ 古いばら苑でも保全していない品種が残っており、病虫害から守りながら、時には接ぎ木をしながら守ってきた証拠だと思われる。
- ・ ばら苑を再整備する際には、貴重な品種は接ぎ木をしながら保全し、継承すると良い。
- ・ 新しい品種だけで整備すると他のばら苑と同じになってしまうので、特色を残す視点も大事。

#### 【育種・植栽プランナー】

- ・ 改植がされなかったことで、今では見ることが少ない「希少な古い品種」が多く残っており、資産とも見える一方で、古株が多く、樹勢が弱くなっているのも事実。
- ・ バラ文化や園芸に造詣の深い人達や専門家から見ると価値あるコレクションだが、残念ながら一般人にはその価値は分かりにくい（活用の際にはわかりやすい演出が必要）。
- ・ 一部の株は、カミキリムシの被害で株元に穴が開いた状態になっていて、かろうじて命を長らえている。

## 3

## 生田緑地ばら苑のあり方検討

イ 庭園「市民に親しまれ、愛された作庭のコンセプト」  
緑に囲まれた丘陵地内において、大パーゴラやクラブハウスなどの人工美を加えた「造苑美のばら苑」として親しまれてきた。そのコンセプトを保存するため、3次元点群測量により調査・保存した。今後、新たなばら苑の計画に向けて整備イメージの共有等に活用する。



ウ 協働「市民に愛されるばら苑」

小田急向ヶ丘ばら苑として人々に愛されたばら苑は、存続の危機を乗り越え、現在は、生田緑地ばら苑として、ばらを愛する市民との協働により維持管理している。

ボランティアの作業内容については、当初、ばら周辺の草むしり等に限られていたが、現在は、ばらの剪定から花がらつみ等ばらに係る管理も担っている。また、来園者向けのガイドツアーの実施や他のばら苑視察等も熱心に行われ、ボランティアとの協働によるばら苑として全国的にも知られている。

また、新型コロナウイルス感染症により、令和2年春の開苑は見送りしたが、現在は、来苑者数も45日間で年間7万人まで回復し、多くの市民に愛されるばら苑となっている。





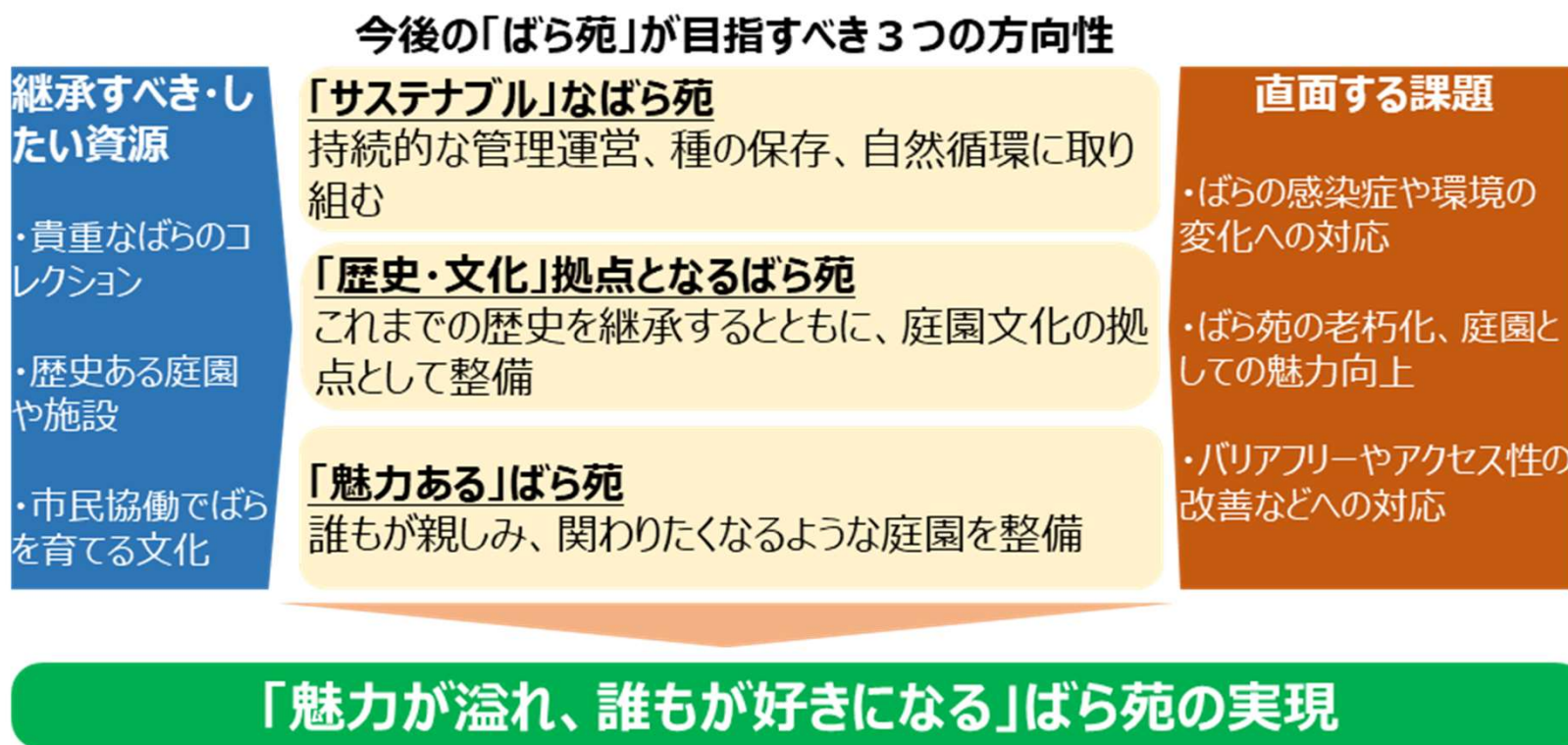
## (3) あり方において検討すべき事項

ばら苑ボランティアや来苑者へのアンケート調査、有識者等の意見を踏まえ、今後の検討において対応すべき取組について整理した。

分類	項目	課題	今後の取組
ばら	品種 土壌改良	大規模な植替え、がん種病の蔓延、わかりやすい案内等	貴重品種の保存・継承 品種ラベルの見直し等
施設	老朽化 規模 修景 休憩・くつろぎスペース 飲食・物販 駐車場 バリアフリー化	65年経過した施設の大規模改修、ばらに偏った植栽、日陰が少ない、休憩スペースが少ない、飲食物販施設が少ない、駐車場が少ない等	大規模な施設改修 植栽内容の見直し 休憩スペース等の整備 飲食物販店の導入等
管理運営	開苑期間 入苑料 イベント・講座 広報・PR 運営・管理 ボランティア	開苑期間が短い、開花時期とずれている、収入の確保、イベントの充実、PRの強化、フォトスポットの設置、管理水準の向上等	通年開放の検討、開苑期間の変更、延長、有料化の検討、イベントの実施、フォトスポットの設置、ばらの管理に関わる専門業者の導入等
その他	アクセス 景観の確保	アクセスの勾配が急、階段が多い、新たなミュージアム構想への対応	アクセスの改善、新たなミュージアム構想への対応等

## (4) 今後の「ばら苑」が目指すべき3つの方向性

本検討にあたり実施したばら苑ボランティアや来苑者へのアンケート調査、専門家へのヒアリング等を踏まえ、新たなばら苑の方向性の関係を改めて整理した。



## (5) 生田緑地ビジョンにおける本ばら苑地区の記載

本検討と同時に検討を進めている生田緑地ビジョン改定案においては、次のとおり、ばら苑の再整備など関連計画を含めて連携して取り組むことが、施策の基本方向に位置づけられています。具体的なスケジュールについては、令和6年度末までに（仮称）生田緑地アクションプランとして位置付けるとされています。

現状・課題	改定に向けた8つの視点	施策の基本方向
ア みどり・生物多様性 (生物多様性のあり方)	①生物多様性を未来に引き継ぐ	<b>「生田緑地の自然が守られ、育まれている」</b> 生田緑地の自然資源は、地域の人々の生活と様々なつながりを持つことで、親しまれ、愛され、守られてきました。この人とのつながりで引き継がれてきた自然資源の価値を改めて市民と共有し、未来に引き継ぐため、公園DXを最大限活用するとともに、多様な主体との取組を推進し、安全・安心で、生物多様性に配慮したみどりを育ていきます。
		<b>「生田緑地内の多様な文化施設と緑地との融合やアート・文化を活かした緑地内外の一体的な魅力向上が図られている」</b> 文化財の保存・活用に加え、新たなミュージアム構想を含めた緑地内の多様な文化施設と緑地との融合、アートや文化を活かした緑地内、周辺まちづくりとの一体的な取組等により、緑地内外の一体的な魅力向上を進め、生田緑地の歴史・文化の融合を進め、未来へつなぎます。
イ 文化	②新たな価値創出や社会課題解決のための場となる	
ウ 施設	③しなやかに使いこなす	<b>「生田緑地における施設として価値が最大化されている」</b> 緑地内の多様な施設については、その機能を最大限発揮するため、公園DX等を活用した戦略的な維持管理を行うとともに、多様な主体との連携・協働・共創により魅力を最大化します。また、各施設の回遊性向上に向けた取組や特に東地区の供用の拡大に向けて、 <u>ばら苑の再整備など関連計画を含めて連携して取り組むこと</u> で、多様な魅力が自然の輪の中で融合し、緑地の価値・魅力の向上を目指します。なお、資産マネジメントの観点から、既存施設の改修等に当たっては、資産保有の最適化に向けた取組を進めるものとし、みんなが使いやすい安全・安心な公園を実現します。
	④多様な主体との連携・協働・共創	
	⑤公園DXの推進	<b>「子どもから高齢者まで誰もが生田緑地を楽しむとともに、親しみを持ち、ファンになっている」</b> 子どもから高齢者まで誰もが、協働のプラットフォームを通して、自然と人々との営みの関係性を理解しながら緑地に関わることで、豊かな自然・文化・人・まちが共に息づきみどりがつなげる持続可能な生田緑地の実現に向けて、みどりに親しみを持ち、ファンになることを目指します。協働のプラットフォームについては、新たな価値創出や社会課題解決の場となるよう、誰もが参加しやすい活動プログラム創出の場とするともに、市民が生き物等の調査やその手法の検討を学識経験者と協働で行うなど科学的な取組を担えるよう取組を進めます。
エ 人 (担い手・来園者)	⑥安全・安心の実現	
オ まちづくり	⑦ダイバーシティ&インクルージョン	<b>「生田緑地が地域の財産として活用され、地域のにぎわいや経済の活性化、安全・安心につながっている」</b> 生田緑地が市域最大の緑地としての役割を果たすとともに、地域の財産として子育て世代等の新たなニーズにも応え、地域の賑わいや経済の活性化の場として活用され、みどりのまちづくりの核としての役割を果たします。また、自然災害への備えとして、生田緑地に関わる人が、様々なハザードマップや災害の歴史等への理解を深め、関わることにより、発災時の有効な緑地利用につなぎ、安全・安心なまちづくりを進めます。
	⑧防災機能の向上	

「豊かな自然・文化・人・まちが共に息づきみどりがつなげる持続可能な生田緑地の実現」

## (5) 生田緑地ビジョンにおける本ばら苑地区の記載

生田緑地ビジョン改定案においては、ばら苑を含む周辺区域の整備の考え方が次のとおり示されています。



東地区（向ヶ丘遊園跡地他）  
⇒【花と緑の憩い・賑わい・交流ゾーン】

## 【整備の考え方】

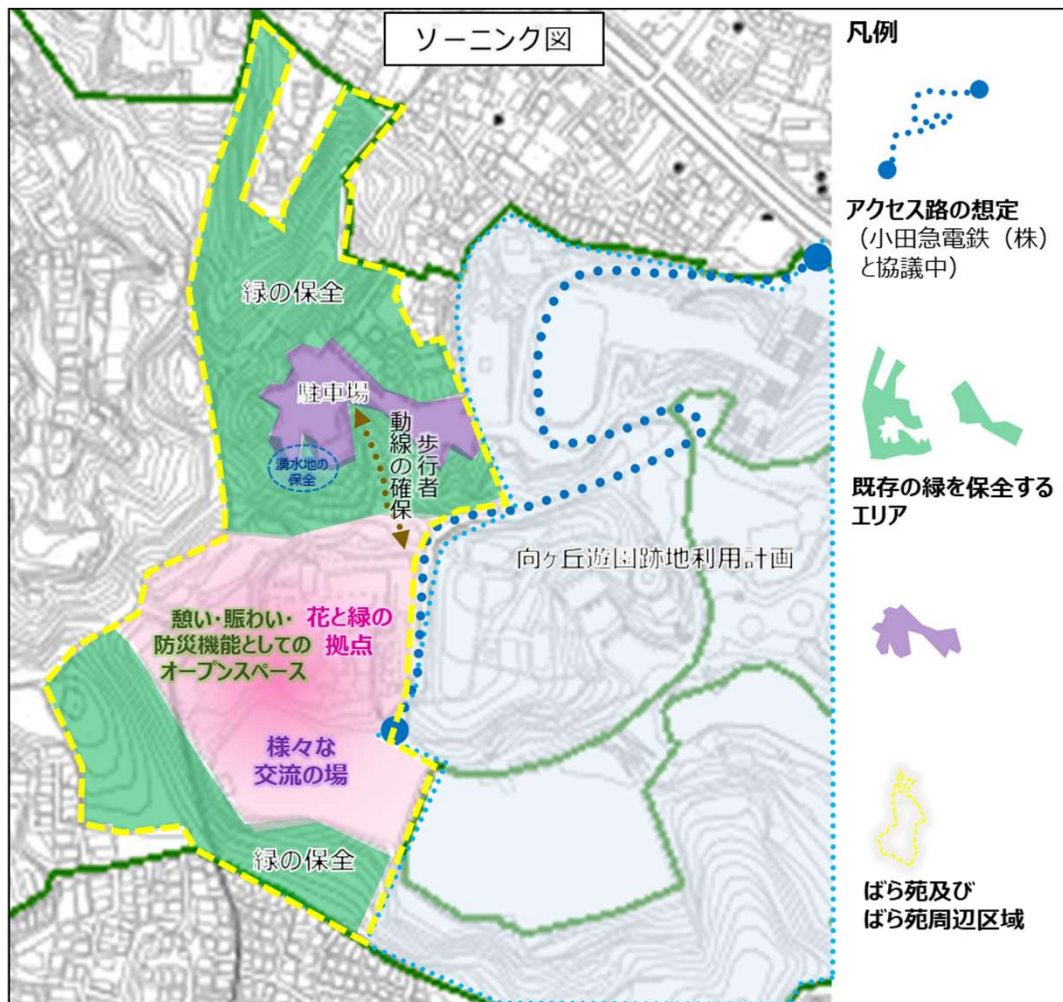
- ・憩いや賑わいの創出や様々な交流、周辺地域の活性化を促進する
- ・豊かな緑地の保全を誘導し、周辺と連携した活用を図る
- ・ばら苑の通年開放や避難場所等の検討を進める

## エリア

・ばら苑及びばら苑周辺区域(7.4ha)

## 内容

- ・花と緑の拠点として、生田緑地ばら苑を再整備する
- ・新たなミュージアム構想により建設されるミュージアムが当該地になった際には、これを交流の場とし、生田緑地及び周辺まちづくりをつなげる場とする
- ・憩い・賑わい・防災拠点として、芝生広場などのオープンスペースを整備する
- ・小田急電鉄（株）が進める向ヶ丘遊園跡地利用計画と調整し、アクセス路を確保する
- ・東地区へは、車のアクセスを想定する必要があることから、駐車場を整備する
- ・なお、エリア内の配置等については、既存の樹林地等の自然環境の保全や景観へ配慮したうえで、地区全体の魅力の最大化に向けて最適な配置を検討する



## 凡例

アクセス路の想定  
(小田急電鉄(株)  
と協議中)



既存の緑を保全する  
エリア



花と緑の  
防災機能としての  
拠点



ばら苑及び  
ばら苑周辺区域

## (5) 生田緑地ビジョンにおける本ばら苑地区の記載

憩い・賑わい・防災機能としての  
オープンスペース

市民とともに検討した生田緑地整備基本構想等において、ばら苑に隣接した区域については、オープンスペースを整備することが位置付けられており、憩い・賑わい・防災機能など多様な利活用が可能な空間として近年その価値が見直されています。

**誰もが使いやすいオープンスペースの創出が、東地区の新たな魅力向上に必要不可欠となっています。**



## 様々な交流創出の場

新たなミュージアム構想において、当該地が開設候補地として示されています。今後、正式な開設地として決定するため、新たなミュージアムの通行ルート等に係る調査・検討について、相互に関連・影響する事項として、本市と小田急電鉄（株）が協力して進めることを目的とし、「新たなミュージアムの開設候補地に係る協議に関する覚書」を小田急電鉄株式会社と締結しています。

**新たなミュージアムの開設地となった際には、文化芸術を介し、緑地とまちをつなぐ、様々な交流創出の場としての役割が期待されます。**

## 花と緑の拠点

生田緑地ばら苑は、「関東一のばら園」として昭和33(1958)年に開苑した小田急向ヶ丘ばら苑を向ヶ丘遊園地閉園に伴い市民の声に応える形で市が引き継いでいます。

現在、年間45日間の開苑期間に7万人が訪れる本市唯一の本格的な庭園となっていますが、**多くの課題に直面しており、「魅力が溢れ、誰もが好きになる」ばら苑としての再整備が必要となっています。**

## 今後の「ばら苑」が目指すべき3つの方向性

## 継承すべき・したい資源

- ・貴重なばらのコレクション
- ・歴史ある庭園や施設
- ・市民協働でばらを育てる文化

## 「サステナブル」なばら苑

持続的な管理運営、種の保存、自然循環に取り組む

## 「歴史・文化」拠点となるばら苑

これまでの歴史を継承するとともに、庭園文化の拠点として整備

## 「魅力ある」ばら苑

誰もが親しみ、関わりたくなるような庭園を整備

## 直面する課題

- ・ばらの感染症や環境の変化への対応
- ・ばら苑の老朽化、庭園としての魅力向上
- ・バリアフリーやアクセス性の改善などへの対応

## 「魅力が溢れ、誰もが好きになる」ばら苑の実現



## (6) スケジュール

現時点でのスケジュールは次のとおりを想定しています。整備時期等については、令和6年度末に策定する（仮称）生田緑地ビジョンアクションプランにて「生田緑地ばら苑管理運営・整備方針」として記載されることになっています。



## 4 本日のヒアリング

この方向性に基づいてばら苑の再整備に向けた取組を進めるにあたり、民間事業者の皆様には次の項目についてご意見を伺いたい。

① ヒアリングにあたり市側に確認したい事項

② 新たなばら苑に向けた提案

（事業手法、整備手法、管理体制、料金体系、開園期間等）

③ ②で提案いただいた手法等について、参画の意向、参画の条件

（関与したい時期(設計・整備・維持管理運営)等）

④ ばら苑周辺区域との連携に関する意見

（交流機能、オープンスペースの活用等）